

富山市教育委員会会議録

令和4年1月定例会

1 日 時 令和4年1月26日(水曜日)

午後 3時30分 開会

午後 4時15分 閉会

2 場 所 Toyama Sakura ビル5階 中会議室

3 出席委員 教育長 宮口 克志
委員 若林 啓介 (※)
委員 藤井 久丈 (※)
委員 尾畑 納子 (※)
委員 高田 健

(※) オンラインによる出席

4 説明のために出席した者

事務局長	金山 靖
事務局理事(学校再編担当)	舟崎 文彦
事務局次長(総務・社会教育担当)	山本 貴俊
事務局次長(学校教育担当)	大久保 秀俊
教育総務課長	石黒 健一
学校再編推進課長	関谷 雄一
学校施設課長	井上 剛秀
学校教育課長	竹脇 孝志
学校保健課長	宮前 仁
生涯学習課長	高橋 祐子
教育センター所長	川端 紀代美
大沢野教育行政センター所長	片山 尚之
郷土博物館長	坂森 幹浩

5 職務のため会議に出席した事務局職員

教育総務課主幹	大島 聡
教育総務課長代理(管理係長)	余川 毅
教育総務課主査	宮森 知佳

教育総務課主任
教育総務課主事

廣 岡 洋 子
杉 林 睦 美

6 傍聴人数 1人

7 付議案件

(1) 報告事項

- 報告事項1 令和3年度富山市通学区域審議会の審議状況について
報告事項2 「令和3年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

(2) その他

- その他1 富山市猪谷関所館企画展「飛騨地方の円空仏 写真展～微笑みの美
仏 円空～」
その他2 富山市佐藤記念美術館企画展「佐藤助庵の蒐集と創作～お茶と美
のころ～」

8 会議の要旨

【開会】

[教育長] 開会を宣言する。
本日は、若林委員、藤井委員、尾畑委員がオンラインにより出席している。会議室の高田委員を含め、委員全員が出席しているため、会議は成立している。

【前回会議録について】

[教育長] 12月教育委員会定例会会議録について意見等を求める。
[各委員] (意見なし)
[教育長] 意見なしのため、前回会議録は承認された。

【報告事項 1】

- [教育長] 報告事項 1 について事務局から説明を求める。
- [学校再編推進課長] (報告事項 1 について説明)
- [教育長] ただ今の件について、質問等あるか。
- [藤井委員] スクールバスを使えば距離的な問題は解決するが、スクールバスそのものについて否定的な話は出ていないのか。スクールバスを積極的に使用していこうという考えでよろしいか。
- [学校再編推進課長] 再編されることによって通学距離が延びることが懸念されている。それによって、スクールバスに乗っている時間が長くなる子どもたちへの配慮が必要であるという意見や、スクールバスを出す場合は、保護者や地域の方に十分な説明や協議をした上で、運行について検討してほしいという意見をいただいている。
- [若林委員] 資料 8 ページに「いずれの案も妥当であるが、富山北部-1 は再編後の地域固有の取り組みの継承が課題である。」と記載があるが、地域固有の取り組みとは具体的にどのようなものか。
- [学校再編推進課長] 資料 8 ページの「3 地域文化について」に記載があるが、再編前の各学校での取り組みについて配慮が必要ではないか、ということである。
- [尾畑委員] 通学距離 3 km が一つの基準となっているように見えるが、それよりも短い 2 km でも大変な場合もある。通学距離が 3 km 未満の場合は、スクールバスを利用するか徒歩かを選択することになるのか。また、地域固有の取り組みについて話があったが、再編によって、学校単位で行っていた地域の伝統的な活動が崩れていくことも考えられる。そうなった時の対応については、学校単位で考えていると思うが、地域の人はどう考えているのか。
- [学校再編推進課長] 通学区域審議会委員の方からも、低学年は通学距離 2 km から検討してはどうかという意見があった。今後、実際に再編することになり、スクールバスを検討しなければならない段階になった際には、バスを走らせるルートやバス停の場所を検討する中で、通学距離が 2 km でも、ルート上に住んでいる等条件が合えば、スクールバスを利用することも考えている。しかし、歩くということも大切である。そのため、一概に 3 km という基準で決めるものではないと考えている。地域固有の文化等については、現在も通学区域審議会の中で深く審議しているわけではない。まずは、子どもたちの教育環境を考える

ことをメインに話し合っている。再編計画を今年度中に作成し、4月以降、地域に改めて説明し、話し合いをしていこうと考えている。

[尾畑委員] 一つの目安として通学距離3kmという基準が出されていると思うが、歩くことの大切さもある。このあと具体的に話が進んでいくと、さらに課題が出てくるのではないかと懸念している。様々な事を十分シミュレーションし、検討してほしい。

[教育長] 水橋地区であれば、一旦上条小学校に集まり、そこでスクールバスに乗って新しい三成小学校へ通うということのをベースに考えた。かなり前にはなるが、大阪でスクールバスを導入した結果、「子どもたちの体力がかなり落ちた」という報告があった。そのため、基本的には子どもたちの体力や運動の機会を損なわないような合理的なルートを考えていくことになる。

地域固有の取り組みということについても、現在統合を進めている水橋地区を例に挙げると、それぞれの学校で、例えば県外の学校と交流するという取り組みを行っているとする、その取り組みを、統合した上でも継続できないかと考えている。また、八尾地区では八尾中学校と杉原中学校が統合する。伝統文化を継承するというところで、八尾中学校で取り組まれていた「おわら」を統合後も継続できるように、部屋を設けておわらを継承することを考えている。

このように、それぞれ培ってきた伝統や学校の文化を、可能な限り統合後の新しい学校でも反映できるような形にできないか、それぞれの地域に入りながら一緒に考えていくことになる。

[尾畑委員] 新しく再構築し、閉鎖的だったものが開放的になるように進んでいけば、良い方向に行くのではないか。そうあってほしい。

[高田委員] 審議会では様々な意見が出ていると思うが、最終的に、第8回の審議会の中で通学区域審議会として最善だと思われる案を一つ推奨するのか。それとも、案ごとにメリット・デメリットを提示し、複数案提案するのか。

[学校再編推進課長] 地域ごとに、複数案あるところもあれば、一つだけの案の地域もある。複数案ある地域で、一つに絞った方がいいという考えが出てきているのであれば、一つの案で回答することが考えられる。第7回審議会ですべての振り返りが全部終わるため、その時点で全体の再編原案の妥当性について一旦審議することになる。

[教育長] 一つの案のみが出るところもあれば、複数案が出て、再編計画としてまとめられる場合もある。

[高田委員] スクールバスについてだが、西部地域については、「通学距離が3

kmを超える人数が過半数」とあるが、3 kmを超える生徒が少数の場合、例えば一人でもいればスクールバスを走らせるのか。

[学校再編推進課長]

スクールバスは、まとまって乗ってもらうのが合理的である。利用者が一人でも、スクールバスの待機場所や駐車場が確保できれば問題ないが、物理的に難しい場合や人数が少ない場合は、現在大沢野地域でもスクールバスの代わりにタクシーを活用しているという例もあり、それも一つの手法だと考えている。

【報告事項 2】

[教育長]

報告事項 2 について事務局から説明を求める。

[学校教育課長]

(報告事項 2 について説明)

[教育長]

ただ今の件について、質問等あるか。

[尾畑委員]

資料 3 ページに「中 1 学力調査との比較からの成果と課題」とあるが、今回の対象生徒が中 1 だった頃と比較したということか。また、全体として正答率が低いとあるが、詳細に説明してほしい。

[学校教育課長]

おっしゃるとおり、今回の対象生徒が中 1 だった頃の結果と比較している。ただ、当該学年の中 1 学力調査において実践した問題については、小学校での学習内容であり、難易度は中学校での学習内容と異なる。また、中学校においては学習範囲が広いことから、目標平均点の設定を、中 1 においては 4 教科で 280 点・1 教科 70 点としているのに対し、中 3 では 200 点中 110 点を想定して問題を作成している。具体的の中 1 の時と比較し、変化があるものについて 2 点説明する。1 点目に、社会科の無答率が改善されていることがわかった。知識を元に考える設問よりも、資料を元に考える設問が増え、手掛かりを元に考え答える意識が高くなったことが考えられる。もう 1 点は、中 1 の時と比較して、国語科の作文の無答率が改善していないことである。意見文を書くことに苦手意識を持っている生徒が一定数まだいることが考えられる。今回の出題においては、資料の読み取りが困難であったことも無答率が改善しなかった一要因であったと振り返っている。

[尾畑委員]

平均のみを比較しても仕方がない。今回の結果は、先生方が思っているよりも能力が伸びていなかったという理解で、これが今後の課題であると受け止められるということか。

[学校教育課長]

そのように課題を捉えて、今後学校にも様々な情報提供をしながら

ら改善を図っていききたい。

[尾畑委員]

この結果は平均点で出されているため、理科や数学は良いが国語は悪いといった差が学校間でもあると思う。5教科を伸ばすことも大切だが、より高かった教科をもっと伸ばせるような、課題解決力と同時に強いところをより伸ばすというような方向にも考えていけると良いのではないか。

[教育長]

富山市では、従前から進めているが、ここ最近でさらに力を入れているのが、幼稚園・保育所・小学校・中学校の連携である。今ほどのご意見は、小・中学校の連携の必要性ということだと思う。小学校でどのような力がついて、どのような力が不足しているのかということ、小学校で検証し、改善を図る。それを基に、中学校では子どもたちの実態を把握した上で、中学校で付けたい力をさらに伸ばす、あるいは弱点を補うということに取り組む必要がある。大切な視点であると思っているので、今後も校園長会等で指導、説明をしていきたい。

[尾畑委員]

学校間で、特色あるものを伸ばしていくという方向で進めていただくと良いと思う。

[若林委員]

英語科の資料「読解力と正答率との関連について」の問題において、「problem」が単数形になっているが、正しくは複数形ではないか。（※問題文は、「problems」となっており、資料の誤り。）
また、こなれた英語では、そのあとの「the problem」は代名詞「them」で受けるのではないか。

（※「the problem」は、様々な問題の中でも、我々一人一人が解決する問題の一つを示しているため、代名詞「them」ではなく、「the problem」を使用している。）

そのあとの文章も、「出たものはすべて食べる」というような次元の違う話になっている。ここから正解を見出せと言われても困る。そのため、実際の問題を見せてほしい。

（※この英文は、中学生である拓海さんが、「世界の人口増加と食料問題」について書いたレポートである。拓海さんが自分でできることをいくつか提案している中の一つとして、「残さず食べようとするべき。」と記載している。）

[教育長]

改めて資料をお届けする。

[高田委員]

各科目について正答率や無回答について説明されているが、実際どのような問題か見てみないと分からないため、問題を見せてほしい。

[教育長] 全教科のデータがあるため、全体を見ていただけるよう資料をお送りする。

【その他 1、その他 2】

[教育長] その他 1、2 について事務局から説明を求める。

[大沢野教育行政センター所長] (報告事項 1 について説明)

[郷土博物館長] (報告事項 2 について説明)

[教育長] ただ今の件について、質問等あるか。

[各委員] 質問等なし。

【閉会】

[教育長] 閉会を宣言する。